

浄瑠璃寺：三重塔

浄瑠璃寺の三重塔は日本の国宝に指定されています。この塔は 1178 年に京都より、今の位置である池の東側に移されてきました。この塔は、平安時代当時の唯一現存している建物であり、その他の建物は戦乱や火災によって消失してしまっています。この塔は浄瑠璃寺へ移される直前に建設されたと推定されています。1 階の壁に沿った仏教の神々の絵画は、塔が修復された鎌倉時代（1185～1333）の後半からのものであると推測されます。

三重塔の中には、東方本尊である、木造で造られた医薬の仏である薬師如来像が安置されています。薬師如来は、衆生の病苦を救う存在と考えられています。この仏像は、12 世紀に一木造りという手法で制作されており、国の重要文化財に指定されています。またこの仏像は、当時制作された蓮の台座に現在も鎮座しています。この像は一般に公開されていませんが、毎月 8 日の好天時に参拝することができます。また、お彼岸の日(春分・秋分)に当たる日にも参拝することができ、この日は浄瑠璃寺にとって特別な日です。この 2 つの日には、太陽がちょうど東の「三重塔」から昇り、西の御本堂「九体阿弥陀堂」の真裏に沈みます。お彼岸の日(春分・秋分)に合わせて太陽の軌道も計算して設計されており、極楽浄土を最も体感できる日であると考えられています。